

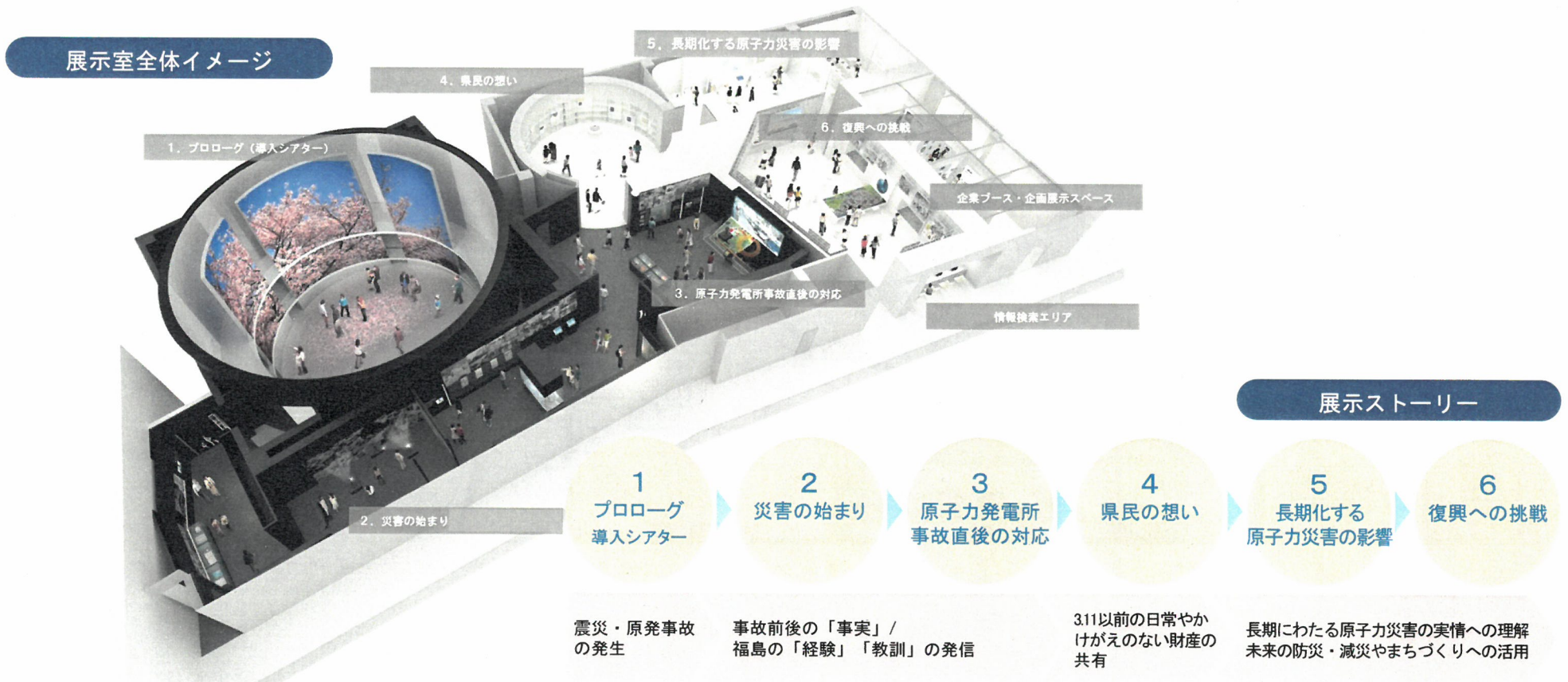
目的

収集資料や調査・研究成果を用いて原子力災害を追体験・実感できる場を提供し、原子力災害の実態や復興に向けた様々な取り組みへの理解を促進する。

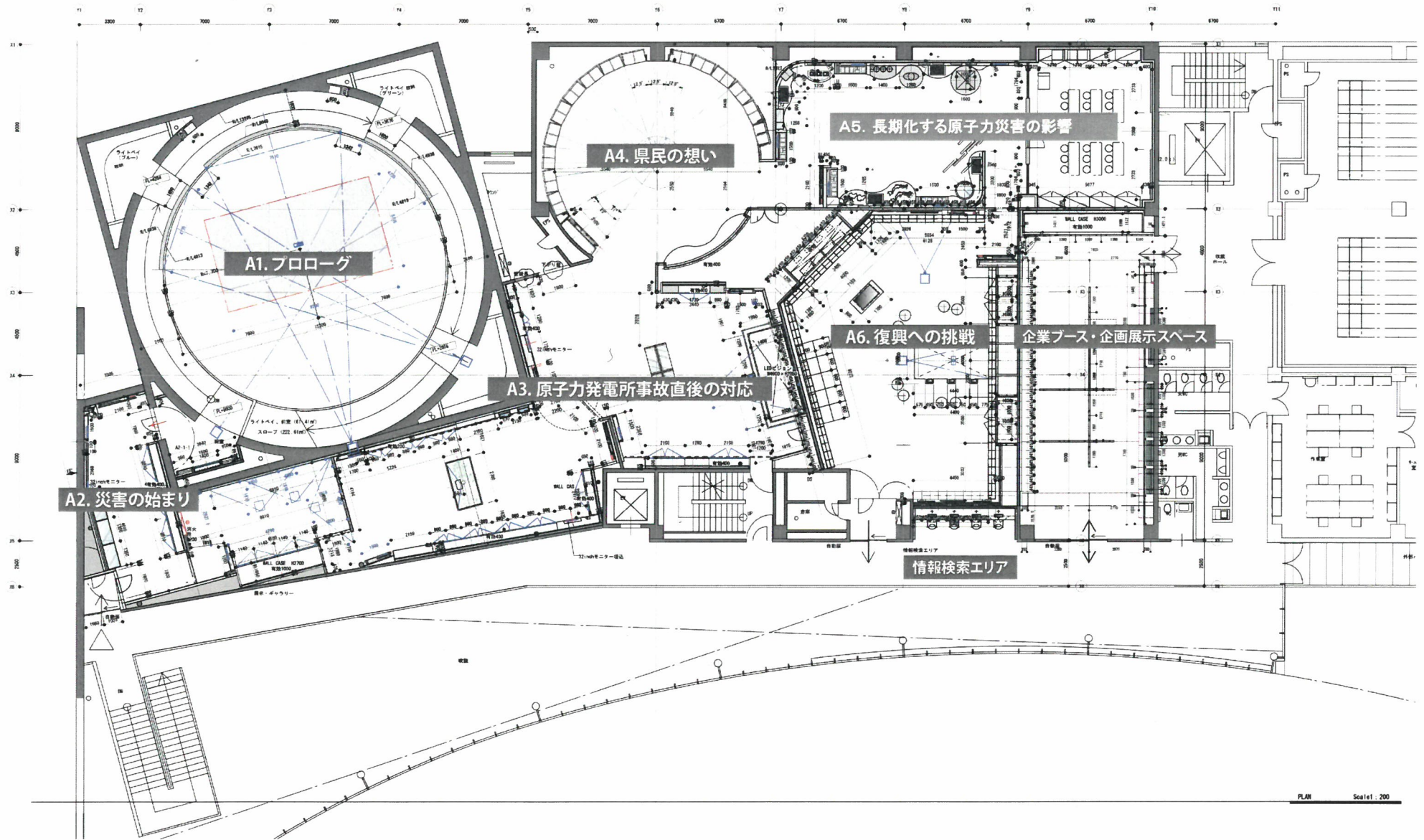
主な実施内容

- ①過去や未来を含めた原子力災害の実態を追体験・実感できる展示（展示内容は下図のとおり）
- ②語り部の「生の声」を通じた原子力災害の経験や教訓の解説
- ③原子力災害の記憶や経験の継承、復興への取組や防災・減災の情報発信などに関する企画展の開催

展示内容



■ 展示平面計画 (2F) S=1/200



各ゾーンの展示内容

1. プロローグ 導入シアター

概要

原子力発電所の安全性を信頼し、長年共存してきた地域。しかし、3.11の震災をきっかけに一変した。地震、津波、そして原発事故というこれまで経験したことのない複合災害に直面し、手探りで対応した多くの人々。

プロローグ映像では、当たり前前の日常が災害により突如一変するということ意識させる。続いて見学する展示全体を通して、この災害の「自分事化」を促すためのイントロダクションとしての役割を担う。

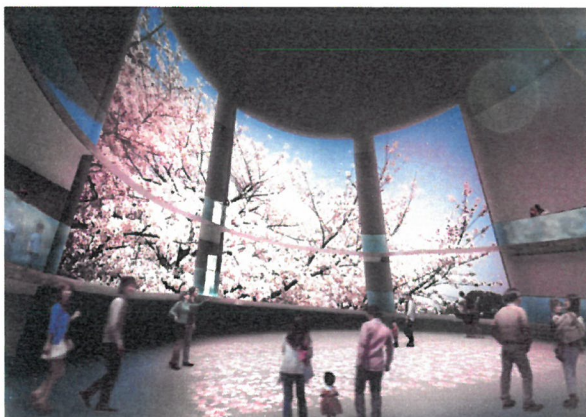
主な展示構成

- 福島の世界とエネルギー変遷
- 原子力発電所と地域の共存共栄の様子
- 3.11
- 原子力発電所爆発～避難
- 避難を余儀なくされた町
- 除染～廃炉へ

展示等内容

- 導入映像

【展示イメージ】



2. 災害の始まり

概要

平穏な暮らしを一変させた地震と津波、それに続く原発事故。未曾有の複合災害の発生を受け、国・県・市町村等の行政、民間事業者等がどのように対応したのか、また国民や地域住民はどのような気持ちで受け止め、行動したのか。事故前・事故当時・事故直後の状況を時系列でたどり、様々な資料・証言・事故調査の記録から、原発事故の始まりを克明に、臨場感を持って描いていく。

主な展示構成

- 事故前の暮らし
- 東日本大震災～地震と津波の記録～
- 原子力発電所事故の発生
- 災害対策本部の記録

展示等内容

- 映像資料（証言、記録、報道等）
- 実物資料
- 解説（地図、文章、模型等）

【展示イメージ】



3. 原子力発電所事故直後の対応

概要

錯綜する情報、自治体丸ごとの避難指示、転々とする避難生活。初めて経験する原発事故発生直後の状況やその特殊性を、避難などの様子に焦点を当て表現する。

手探りの初期対応や国内外からの注目など、原子力災害の初動の記録と記憶を、様々な資料や証言などをもとに振り返る。

主な展示構成

- 避難の開始
- 県内に広がる不安
- 国内外の反応と支援

展示等内容

- 映像資料（証言、記録、報道等）
- 実物資料
- 解説（地図、文章等）

【展示イメージ】



各ゾーンの展示内容

4. 県民の想い

概要

平穏な日常が原発事故後にどのように変わってしまったのか、県民の想いを、「記憶（証言、筆跡、手記等）」と「記録（事実、データ等）」を組み合わせて発信する。

特に、広域的・長期的な避難、あらゆる分野への風評、放射線に対する理解の違いなど、原子力災害特有の事象を中心に発信する。

主な展示構成

- 災害時に感じた不安・恐れ
- 楽しかった学校生活と突然の別れ
- 家族との思い出や地域生活と分かれ
- 生活基盤の喪失と将来への不安

展示等内容

- 導入映像
- 映像資料（証言、記録）
- 実物資料

【展示イメージ】



5. 長期化する原子力災害の影響

概要

原子力災害が長期化する中で、福島県の人々（特に避難市町村）がどのように対応しどのような教訓を得たか、資料や体験を通して学んでもらう。特に、放射線測定機器などの実物資料を活用した研修やワークショップを行ったり、県民健康調査等の状況を伝えたりすることで、原子力災害の特徴や実態への気付き・学びを提供する。

主な展示構成

- 風評の払拭
- 除染の取り組み
- 長期避難に対する取り組み
- 健康不安に対する取り組み

展示等内容

- 映像資料（インタビュー等）
- 実物資料
- 解説（デジタルコンテンツ、数値等）
- 研修・ワークショップスペース

【展示イメージ】



6. 復興への挑戦

概要

逆境を乗り越え、復興に挑戦する福島県の姿を紹介する。避難先から故郷に戻り新しいまちづくりをすすめる、といった世界初の取組をリアルタイムに発信。

人、産業、暮らし等多くのシーンにおける風評払拭の過程や国を挙げてのチャレンジなどの状況を見える化し、復興への理解を深めるとともに、避難者の帰還の促進に寄与する。

主な展示構成

- 行政による復興への取り組み
- 廃炉の今
- 福島イノベーション・コースト構想の取り組み
- 12市町村の復興への取り組み
- 県民による復興への取り組み（チャレンジ！ふくしま）

展示等内容

- 映像資料（証言、プロモーション等）
- 実物資料
- 解説（デジタルコンテンツ、図表、文章等）

【展示イメージ】



プロローグ
(導入シアター)構成案

原子力発電所の安全性を信頼し、長年共存してきた地域。しかし、3.11の震災をきっかけに一変した。地震、津波、そして原発事故というこれまで経験したことのない複合災害に直面し、手探りで対応した多くの人々。
プロローグ映像では、当たり前前の日常が災害により突如一変するということを意識させる。続いて見学する展示全体を通して、この災害の「自分事化」を促すためのイントロダクションとしての役割を担う。

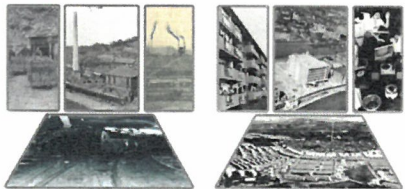
1 今の福島 【シナリオP1~5 30秒】

福島本来の美しさ
「うつくしまふくしま」を体現する美しい自然と、人々の生き生きとした暮らしの様子から映像はスタート。
■映像内容(仮) 相馬野馬追から映像は始まり、ドローンを駆使した迫力のマルチ映像演出。
■撮影予定 会津地方：磐梯山・猪苗代湖 / 中通り地方：三春滝桜 / 浜通り地方：松川浦、塩屋崎灯台等



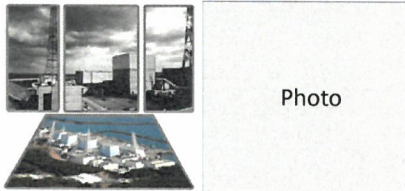
2 福島の歴史とエネルギー変遷 【シナリオP6~7 50秒】

福島に原子力発電所ができた理由
福島県は戦前・戦後、石炭、水力発電等で日本の経済を支えてきた。高度経済成長期、電力需要の高まりを背景に、国が進める原子力政策を受け入れ、浜通りに発電所を建設。地元に必要な雇用を生み出した。
■映像内容 戦前戦後の福島の産業を当時の資料や坑道内部をイメージさせる映像で構成します。



3 原子力発電所と町と住民の共存共栄の様子 【シナリオP8~10 40秒】

原子力発電所の完成と事故前の町
原子力発電所の電気は東京に送られ、日本の経済を支えた。地域も原発の共存しながら発展してきた。そこには明るい未来を信じ、笑顔あふれる暮らしがあった。
■映像内容 資料映像を中心に構成。建築中の原子力発電所や、原子力発電所が完成した当時の様子、また、人々の笑顔や暮らしを素材を使い紹介します。



4 3.11 【※④⑤ シナリオP11~15 80秒】

3.11を体感する
誰も経験したことが無い巨大な地震と津波。原子力発電所も全交流電源喪失に！たたみかけるような恐怖感が襲う...
■映像内容 地震から原子力発電所建屋の水素爆発までを、全画面マルチスクリーンで表現します。



5 原子力発電所爆発～避難

避難時の不安感を映像化
大気中に放出される放射性物質。暗闇の中の移動・搬送される病院の患者。避難先では避難者がスクリーニング検査を受ける。避難場所を転々とし、先の見えない不安を抱く人々。
■映像内容 当時の素材を組み合わせ、避難時の困難さを追体験していただきます。目線イメージとしては、スクリーニング検査を受ける避難者の様子や、避難者の見た町等、主観映像を入れる事で、だれでも日常の中から災害という非日常に巻き込まれる可能性がある事を示唆します。



6 避難を余儀なくされた町 【シナリオP15~16 60秒】

事故後の町
事故発生から数年経過した町のイメージ。残された動物たち。根強い風評。観光客のキャンセルが増え、観光や農業といった地元の産業は大打撃を受ける。
■映像内容 長期にわたる避難生活や風評、荒廃する町並みといった原子力災害特有の苦しみを描きます。人がいない町や、耕作されなくなった畑など



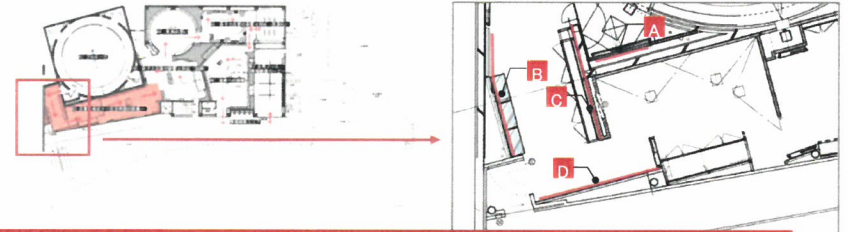
7 除染～廃炉へ 【シナリオP16~17 60秒】

未来への予感
避難生活が長期化しているが、同時に除染作業や廃炉作業も進み、住民は順次帰還を開始。復興へ向かう明るい兆しを見せる。
■映像内容 長期化する避難生活、除染作業、廃炉作業、避難解除に伴う住民の帰還に関する映像を組み合わせ、徐々に復興へ向かっていく様子を表現します。(ドビレッジ、ロボットテストフィールド等)

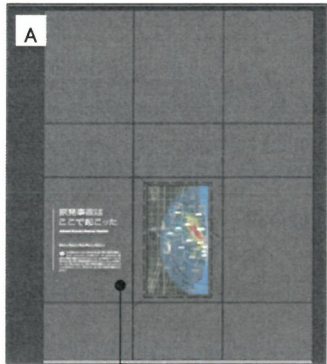


2-1 事故前の暮らし

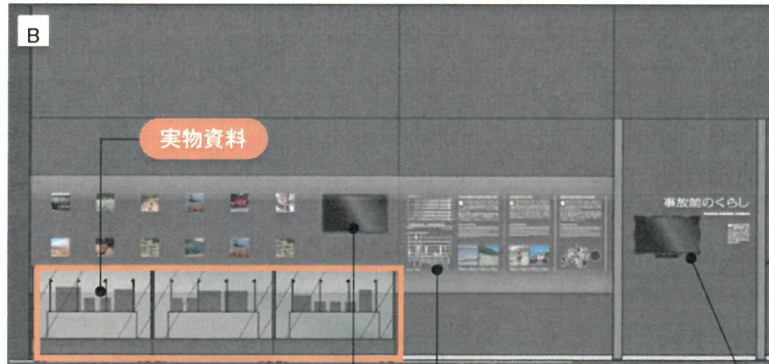
事故前の原子力発電所周辺の暮らしはどのようなものだったのか？祭りや行事、学校生活、商店の賑わい、地元の経済を支えていた各種産業など、日常をかたちづくっていたものごとを記録や証言を通し、描き出す。



ねらいに沿った構成となっているか

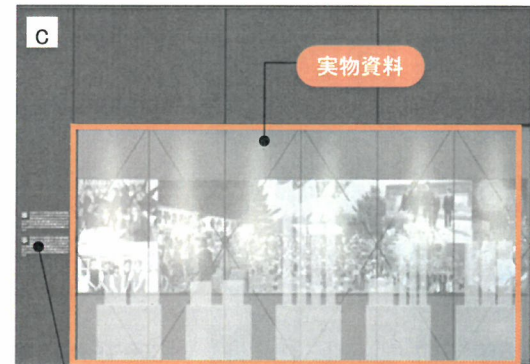


0. 原子力発電所事故はここで起こった（地図解説）



3. 祭事・行事・地域の日常を示す映像

2. 事故前の原子力発電所立地周辺の産業に関する情報（解説）



1. 証言映像

4. 原子力発電所と地域社会（解説）



※壁面グラフィック

今回は構成確認の参考に御覧ください。資料の選定については第4回委員会（11月）で改めて御説明します。

実物資料（候補）

- ・ 学校生活に関する実物資料
- ・ 地域の伝統（行事、祭り）を伝える実物資料
- ・ 原子力発電所のPR、地域との関係に関する資料



市町村対抗リレー用具



双葉駅時刻表



だるま市のダルマ



学童ヘルメット



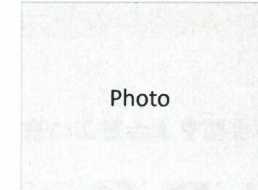
アトムふくしま（冊子）



原子力発電所との共生（地域理解）VHS



東電提供スタンド

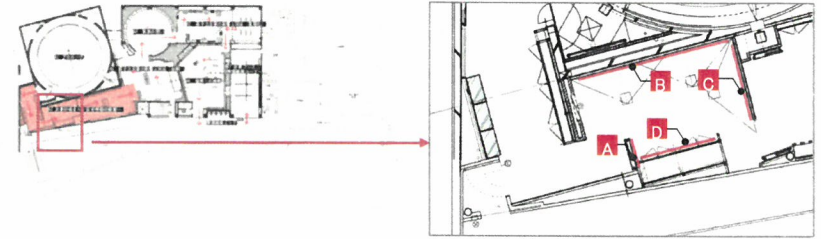


東電提供ニュース掲示板

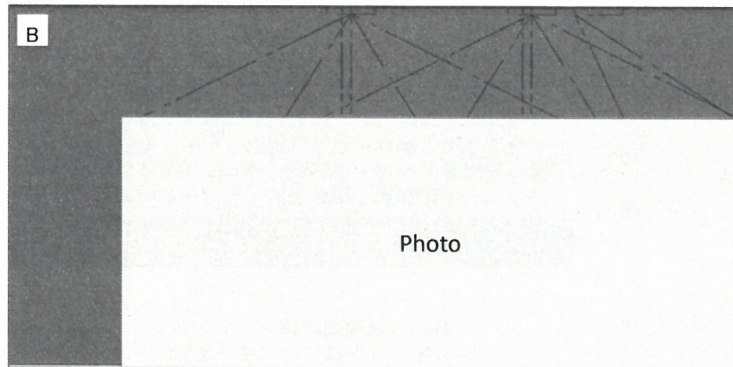
2-2

東日本大震災
～地震と津波の記録～

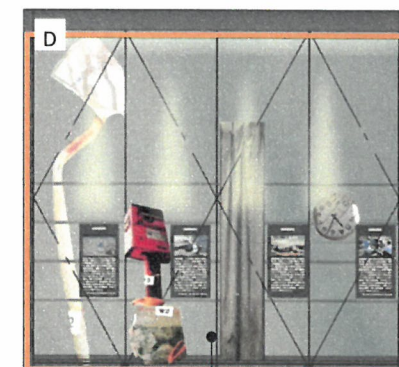
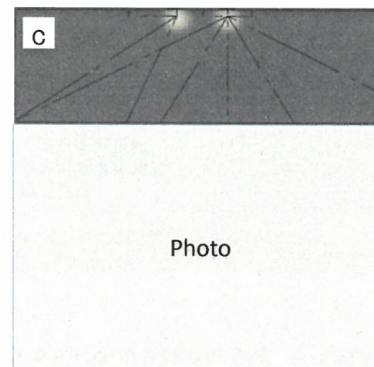
原発事故のきっかけとなった地震と津波をとりあげ、その前後で世界ががらっと変わったことを象徴的に表現する。地震・津波前のゆるやかな時の流れと、地震・津波後の激しい時の流れのギャップを際立たせ、全てが変わってしまったことを感じてもらう。



1. 証言映像



2. 津波・震災の様子（映像）



実物資料

2. 地震・津波の様子（映像）

平穏な日常が一瞬にして奪われてしまった2011年3月11日。福島県沿岸部を壊滅させた地震・津波の恐ろしい様相を、実写映像のみで伝える。自然災害がもたらした恐怖と被害の現実を、時系列に沿って3面マルチ映像で映し出す。

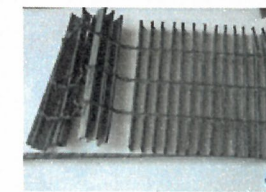


実物資料（候補）

- ・発災時間の記録資料
- ・津波の記録、痕跡資料
- ・地震の記録



地震の時刻を示す時計



地震で変形したグレーチング



〇〇〇体育館
天井落下物ダクトの一部



津波被災交通標識

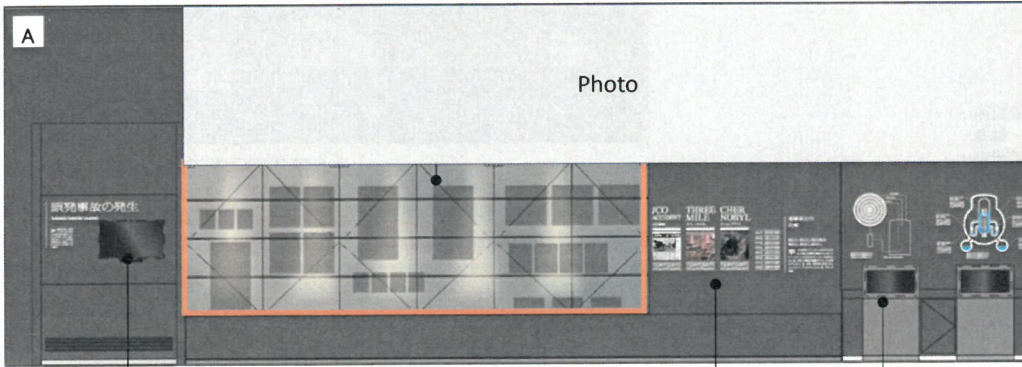
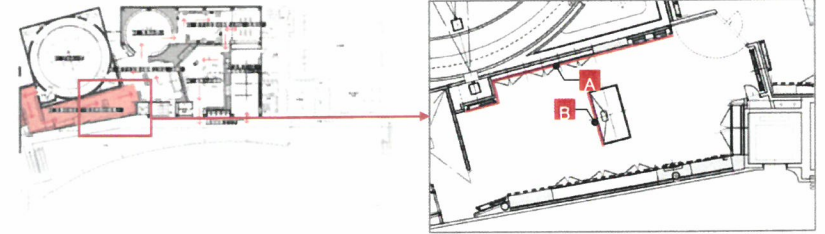


津波被災郵便ポスト

2-3

原子力発電所事故の発生

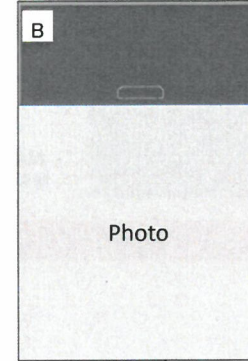
原発事故発生の瞬間と、次々に起こる事態。津波が到達してから原子力発電所で起きた事象を克明に表す。絶対の安全はないということ、災害は起こりうるということを伝え、万が一に対する備えについて考えるきっかけとする。また、チェルノブイリなど過去の原発事故との対比を通して、今般の原発事故の実態を明らかにする。



1. 証言映像

3. これまで発生した原子力関係の事故（チェルノブイリ、スリーマイル、JCO事故等）（解説）

4. 5重壁の崩壊（タッチパネルコンテンツ）



2. 原子力発電所事故解説映像／原子力発電所模型

2. 原子力発電所事故解説映像／原子力発電所模型

福島第一原子力発電所の災害前の様子から、地震発生、電源喪失、メルトダウン、水素爆発、放射性物質の放出までを、福島第一原子力発電所の模型とその上に設置された瞬間調光ガラスを活用した演出映像で紹介する。原発事故発生の瞬間と、次々に起こる想定外の事態。津波が到達してから原子力発電所で起きた事象を克明に表す。絶対の安全はないということ、災害は起こりうるということを伝え、万が一に対する備えについて考えるきっかけとする。



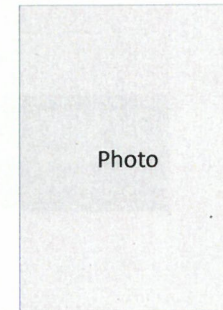
福島第一原子力発電所模型（参考：環境創造センター）



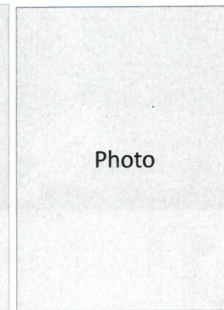
福島第一原子力発電所空撮（東京電力HP）

実物資料（候補）

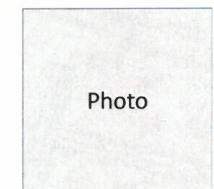
- ・新聞記事
- ・原子力発電所事故による痕跡資料
- ・原子力発電所事故対応当事者の生の記録



原発事故の発生を伝える新聞記事



配達されなかった新聞束（〇〇〇〇〇）

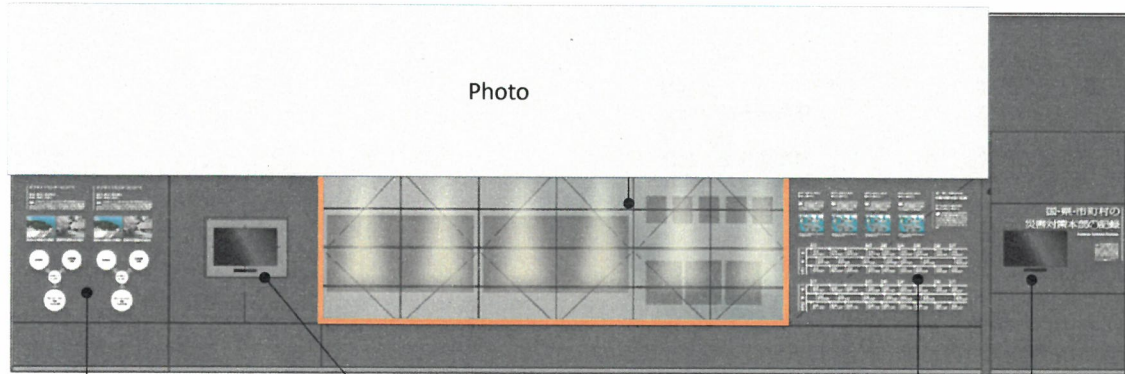
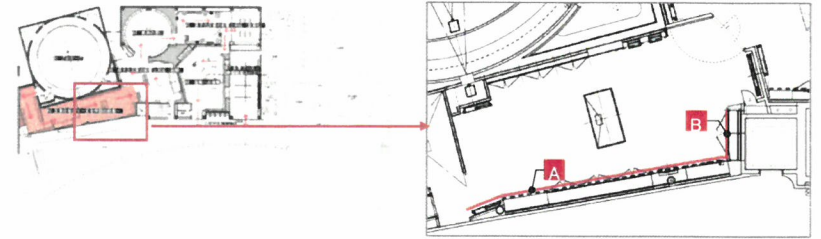


電源復旧用ケーブル

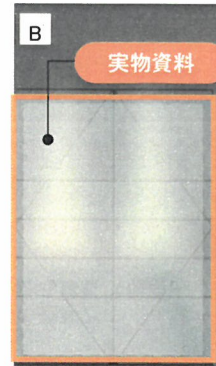
2-4

災害対策本部の記録

未だかつて誰も経験したことの無い事態に直面し、懸命に対応した人々の記録を、当時の緊迫感とともに伝える。また、克明な記録を共有することで、今後またこのような事態が起こった際に、行政などはどのように対応するべきか、といった教訓について共有を促す。



- 1. 証言映像
- 2. 行政の対策について (解説)
- 3. 報道映像
- 4. オフサイトセンターの記録 (解説)



実物資料 (候補)

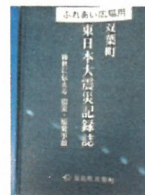
- ・当時の行政の動きを記録した資料
- ・オフサイトセンター関連資料



国会事故調報告書



県災害記録誌



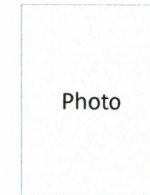
市町村災害記録誌



浪江町震災記録誌



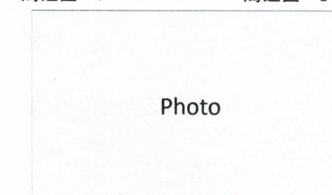
福島第一原子力発電所周辺図-1



福島第一原子力発電所周辺図-2



オフサイトセンター
福島県緊急時連絡網装置



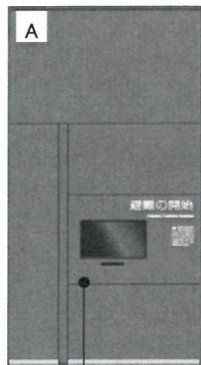
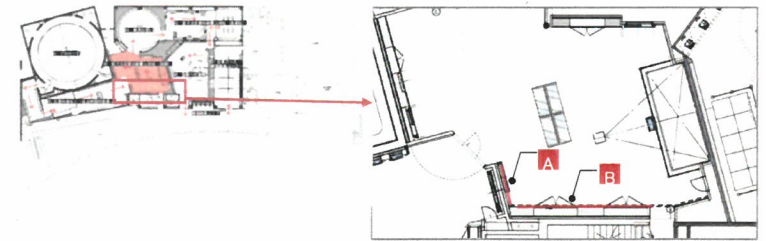
オフサイトセンター内
ホワイトボード



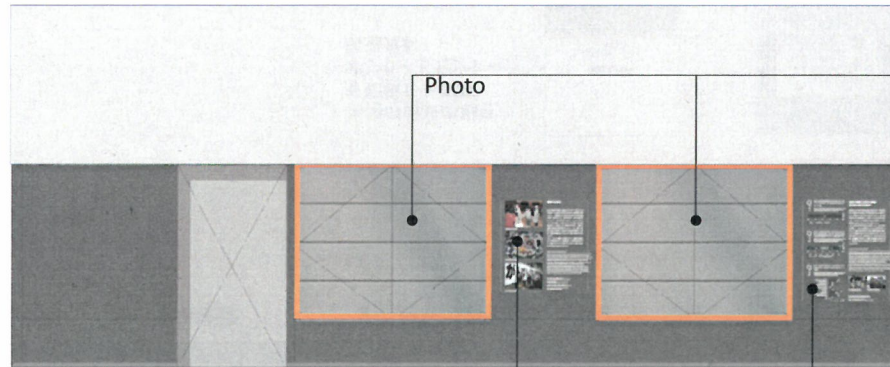
オフサイトセンター入口看板

3-1
避難の開始

避難の様子や当時に振り返る証言を通し、先が見えないまま故郷を離れ、避難せざるを得なかった人々の戸惑い、不安、恐怖を想像し、共感を深めてもらう。
また、情報が錯綜し、混乱を極めた避難所での受け入れや、避難先を転々とした人々のことなど、当時の様子を伝える。避難所で使われた品々の展示を通して、応急的な物資でなんとか日々を過ごしていたことを想像してもらい、当時の避難生活の苦しさを伝える。また、現在の防災計画との比較等をとおして、災害への日頃の備えの重要性を訴求する。



1. 証言映像

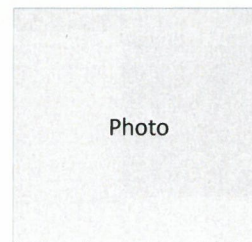


3. 避難所の生活
(解説)

2. 突如の避難と
度重なる移動 (解説)

実物資料 (候補)

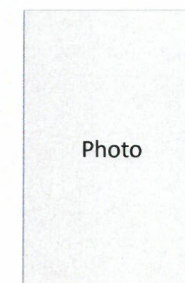
- ・福島特有の「緊急避難」状況を記録した資料
- ・避難状況を記録した資料



灯油用ポリタンク



書きかけの
避難バス患者
割り当て表
(大野病院)



避難所生活の記録



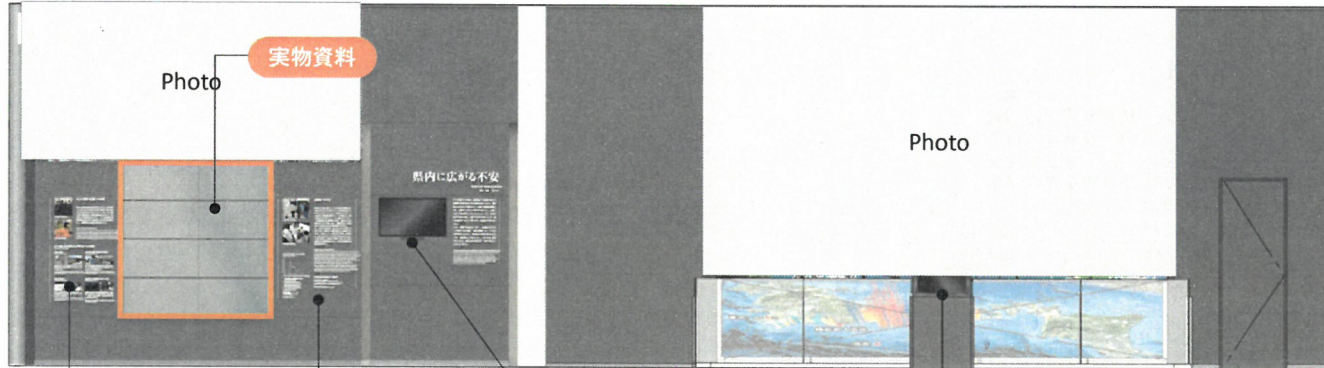
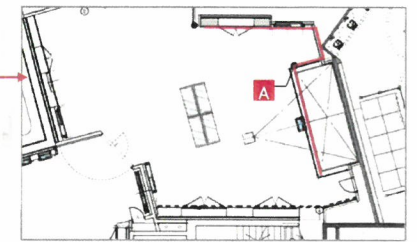
トリアージタグ (大野病院)

3-2

県内に広がる不安

「放射線」という目に見えないものの脅威に初めて晒され、混乱、困惑する社会と人々の記録とその対応を、放射線の影響範囲や避難指示区域、避難所の推移などの情報と共に伝える。これらを通して、非常時の正しい情報の入手や初期行動の重要性を改めて訴求する。

また、放射線の影響は、福島県の産業に大きな打撃を与えた。未だに続く風評の始まりとして、福島県が被った経済的な影響の大きさを伝える。



- 3. 産業への影響と各団体の対応経過 (解説)
- 2. 放射線への不安 (解説)
- 1. 証言映像
- 4. 避難の推移など「原発避難の7日間」 (映像+マップ)

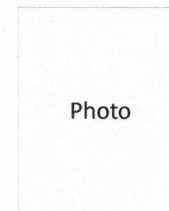
4. 避難の推移など「原発避難の7日間」

被災者はもちろんのこと、日本全体に深い傷跡を残し、今なお終息に向けた不断的な努力が続けられている福島第一原子力発電所事故。膨大なビッグデータや当事者の証言から明らかになってきた、3月11日の発災から18日までの7日間の軌跡を、「7日間の事故の実像」「避難を強いられた人々」「滞った物流」の3つのテーマにフォーカスして提示する展示映像を展開。実写映像とビッグデータ (NHK協力) による解析映像をシンクロさせることで来館者に分かりやすく提示し、災害初期における行動のための課題を浮き彫りにしていく。



実物資料 (候補)

・スクリーニング等に関する資料



タイベック
スーツ各種



スクリーニング済証



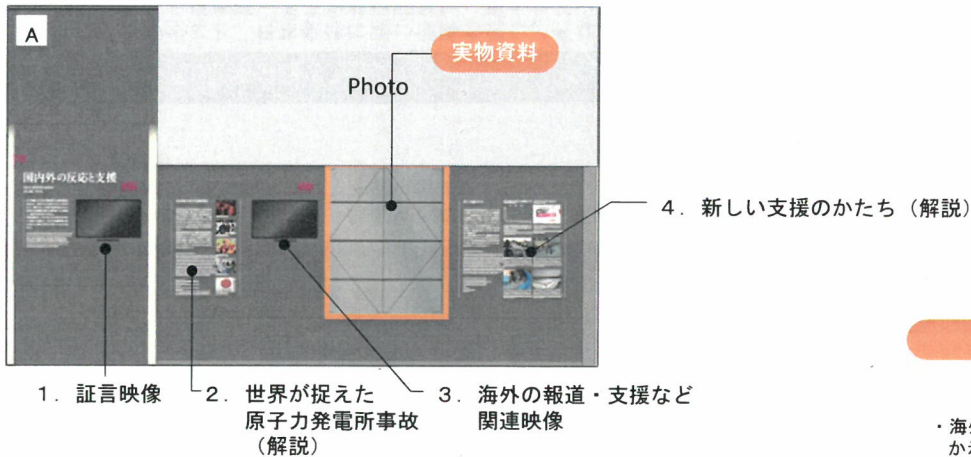
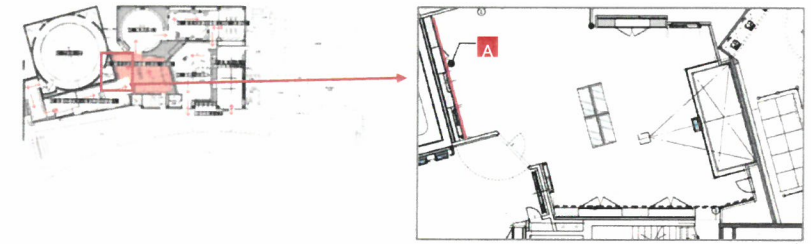
防塵マスク



線量計と調整用
ウラン鉱石

3-3
国内外の反応と支援

原発事故の発生に対し寄せられた国内外からの注目と支援について紹介する。原発事故を世界がどう報道したか、第三者の目線で改めて見ることで、事故で起こったことへの客観的理解を促し、今後の教訓へとつなげる。さらに東日本大震災をきっかけに始まったクラウドファンディングやライン、ツイッターを活用した支援など、これまでの大規模災害とは異なる取り組みを伝えるとともに、様々な支援に対する感謝を伝える。



実物資料 (候補)

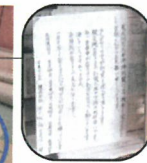
- ・海外がどう伝えたか示す資料
- ・支援を寄せた人の思いがわかる資料、支援物資



他県などからの災害用備蓄毛布



国内企業からの物資と応援メッセージ



ウクライナなどからの寄せ書き



寄せられた千羽鶴

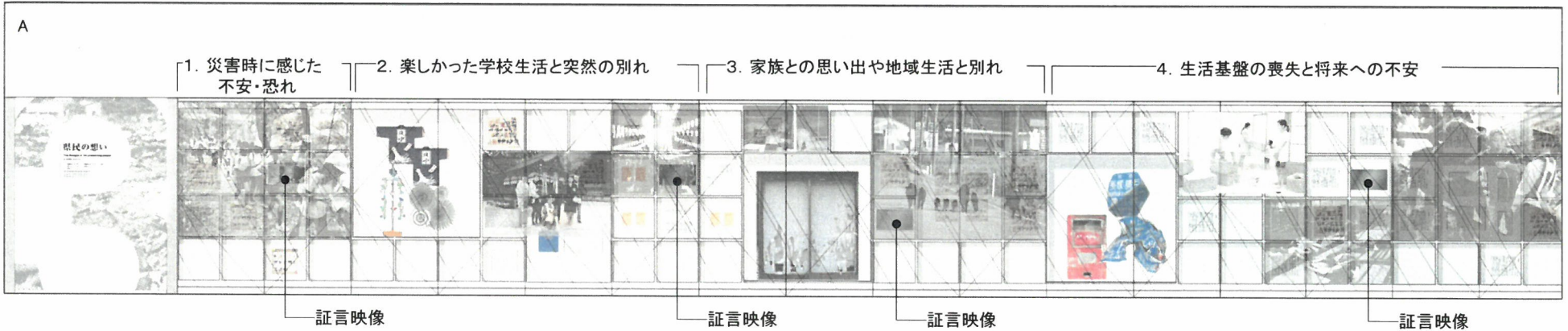
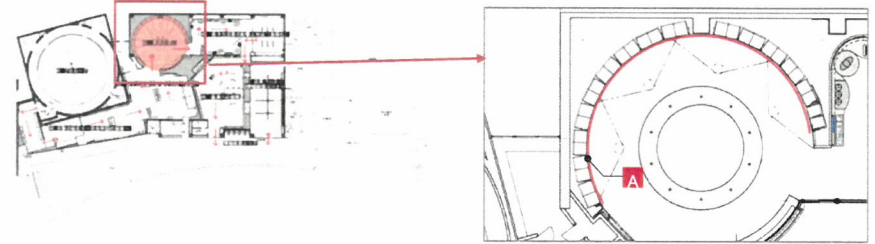


英国インディペンデント・オン・サンデー紙の報道と応援記事

Photo

- 4-1 災害時に感じた不安・恐れ
- 4-2 楽しかった学校生活と突然の別れ
- 4-3 家族との思い出や地域生活と別れ
- 4-4 生活基盤の喪失と将来への不安

平穏な日常が原発事故後にどのように変わってしまったのか、県民の想いを、「記憶（証言、筆跡、手記等）」と「記録（事実、データ等）」を組み合わせ発信する。
特に、広域的・長期的な避難、あらゆる分野への風評、放射線に対する理解の違いなど、原子力災害特有の事象を中心に発信する。



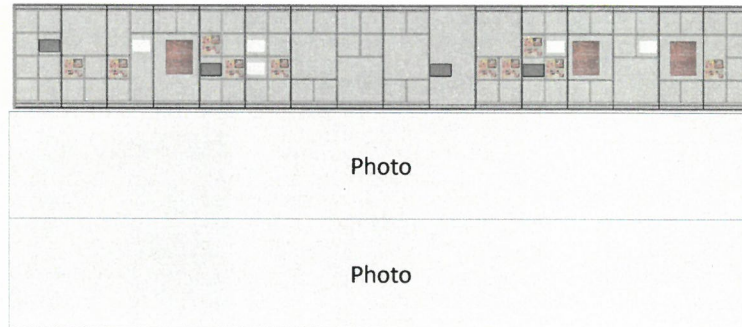
震災関連資料の展示と映像の複合演出で県民の想いを伝える

原子力発電所事故前と事故後の人々の暮らし、心情の変化を、証言映像と展示物を組み合わせ、スクリーン全体を活かしたマルチ映像で表現。

※映像演出については、10分に1回等、展示全体の所要時間と調整しながら上映頻度を検討。

通常時
映像演出時

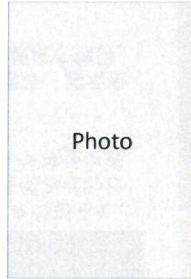
- | | |
|-------------|--|
| 震災関連資料展示 | ・震災関連の資料展示として活用 |
| 証言映像 | ・証言映像 |
| 映像と展示物の複合演出 | ・映像の一部が透けて展示物が見える演出やプロジェクションマッピングの手法を用いて、来館者のイメージを増幅 |
| パノラマスクリーン演出 | ・パノラマスクリーンとして来館者の没入感を演出 |



実物資料（候補）

・災害によって失われてしまった、地域での暮らしや家族・友人といった身近な存在との当たり前の日常を表す資料。

4-1 災害時に感じた不安・恐れ



内部被ばく検査の実施について

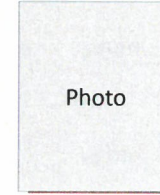


避難所で配布された安定ヨウ素剤

4-2 楽しかった学校生活と突然の別れ



新学期席替え表（〇〇〇〇）

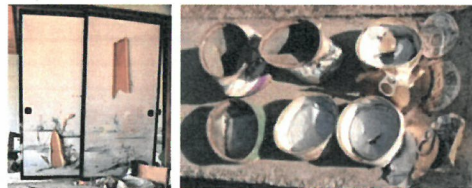


放置された大切な楽器と譜面台

4-3 家族との思い出や地域生活と別れ

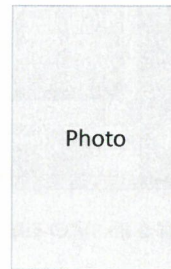


〇〇〇〇田植え踊り、早乙女着物笠1式

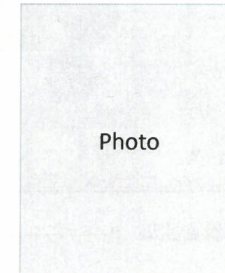
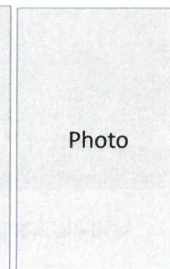


野生動物に荒らされた襖・畳（建具）と缶詰

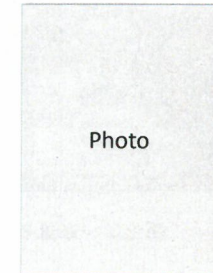
4-4 生活基盤の喪失と将来への不安



農作物出荷指示書及び通達（原木シイタケについて）



農作物自主検査数年分の記録

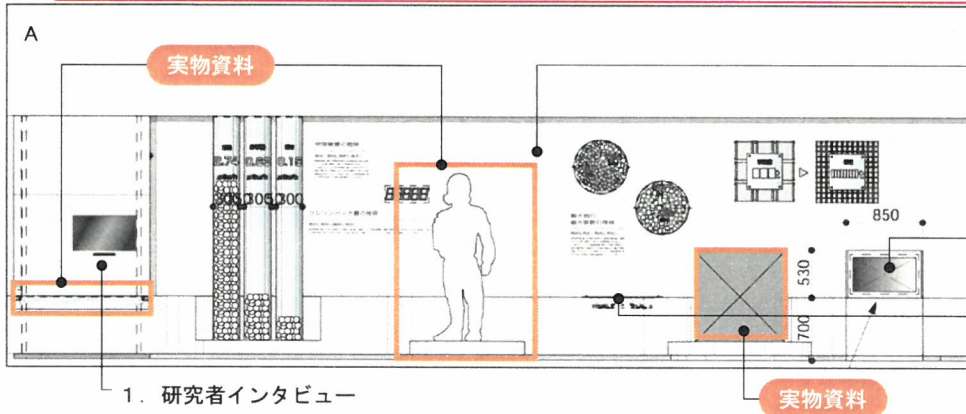
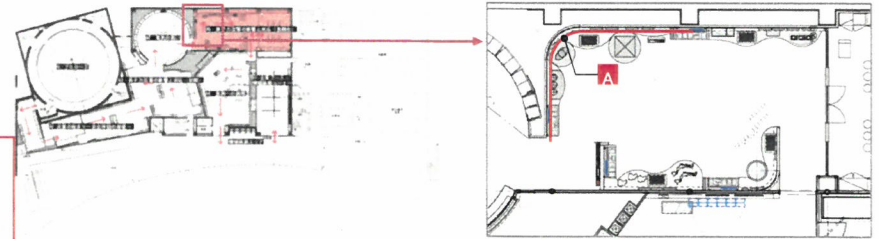


家畜安楽死同意書

5-1 除染

原発事故直後から、住民を放射線から守るため、どのように除染が行われてきたのか、また避難指示解除に向け帰還困難区域で現在進められている除染の状況について紹介する。

コーナー順番変更。①除染 ②風評 ③長期避難 ④健康不安 流れは以下のとおり。線量低減のため除染に取り組み、線量検査等を経て安心・安全な農林水産物等を提供する努力をしているが、風評が根強いということを伝え、払拭の取り組みを伝える。次に、県民1人1人の生活に焦点をあて、長期避難、避難に伴う健康不安や、放射線の影響に対する不安への対応を伝える。



- 4. 除染に関する各種調査データ (立体グラフィック)
 - ・コラム「除染とは」
 - ・除染の進捗状況
 - ・除染土壌等の搬出状況と仮置場等での保管状況
 - ・中間貯蔵施設への搬出状況と県外最終処分に向けた取り組み
 - ・空間線量率の推移 など
- 3. 除染のやり方 (タッチパネルコンテンツ)
- 2. 除染の現在 (タッチパネルコンテンツ)
 - ・進捗状況 (詳細)
 - ・除染土壌等の搬出状況と仮置場等での保管状況
 - ・中間貯蔵施設への搬出状況と県外最終処分に向けた取り組み
 - ・空間線量率の推移 など

※立体グラフィックでは概要、タッチパネルコンテンツでは詳細を取り上げる形で連動。

2. 除染の現在 (タッチパネルコンテンツ)

原発事故直後から、子どもを始めとした住民を放射線から守るため、どのように除染が行われてきたのか、また避難指示解除に向け帰還困難区域で現在進められている除染の状況について紹介する。



3. 除染のやり方 (タッチパネルコンテンツ)

住宅のどの場所に放射性物質は溜まりやすいのか？その除去方法は？放射性物質を可視化して、最適な除染方法を学ぶ。



実物資料 (候補)

・除染の実態と対策を表す資料



除染作業用個人線量計



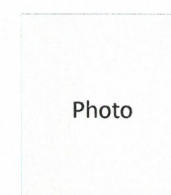
各種線量計



タイベックスーツ



除染用フレコンバッグ



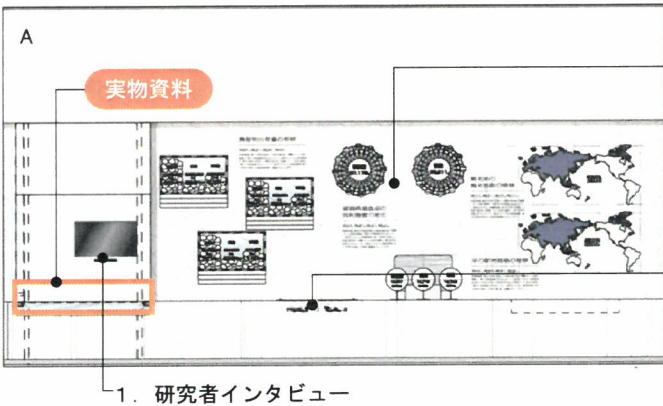
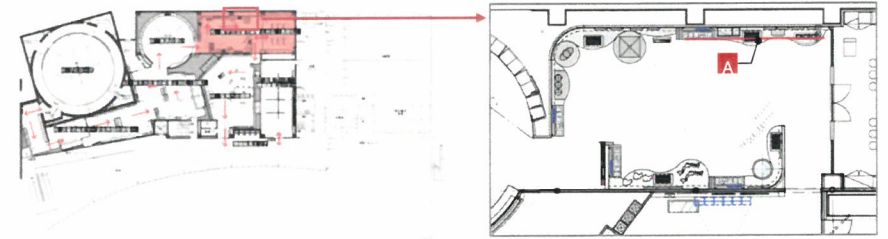
除染中標識 (ウマ)



汚染土の野積み処理方法 住民説明用ミニチュアキット

5-2 風評の払拭

震災後、県内で実施されてきた風評払拭のための取り組みを紹介し、正確な理解の共有を促すことにより、福島県に対するマイナスのイメージを払拭するきっかけとする。



- 3. 風評の現在 (立体グラフィック)
 - ・コラム「風評とは」
 - ・主な農林水産物に関する推移データ
 - ・観光客数の推移
 - ・観光客数復活等風評払拭への取り組み紹介 (コラム)
 - ・福島県の公立学校の給食における地場産物活用の割合
- 2. 風評の現在 (タッチパネルコンテンツ)
 - ・主な農林水産物に関する推移データ
 - ・観光客数の推移データ
 - ・消費者意識の実態調査結果推移
 - ・福島県の公立学校の給食における地場産物活用の割合
 - ・その他風評の実態と対策関連資料

※立体グラフィックでは概要、タッチパネルコンテンツでは詳細を取り上げる形で連動。

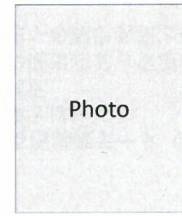
2. 風評の現在 (タッチパネルコンテンツ)

風評の実態は？原因はどこにあるのか？どうすれば払拭できるのか？解決策に結びつけるために、正確な実態の把握と、現在進められている対策を伝える。農林水産物の推移データ、観光客数の推移データ、などのデータを蓄積と更新。消費者庁の風評に関する消費者意識の実態調査結果推移を紹介する。



実物資料 (候補)

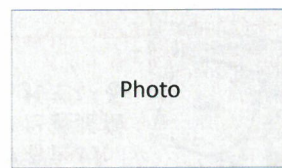
- ・風評の実態を記録した資料
- ・風評対策を記録した資料



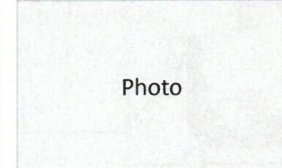
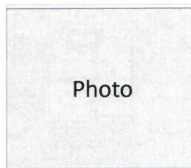
山菜検査表数年分



風評対策キャンペーンポスター、チラシなど



宿キャンセル状況記録



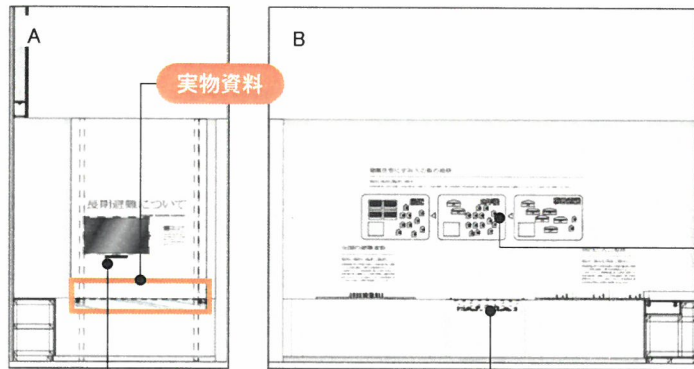
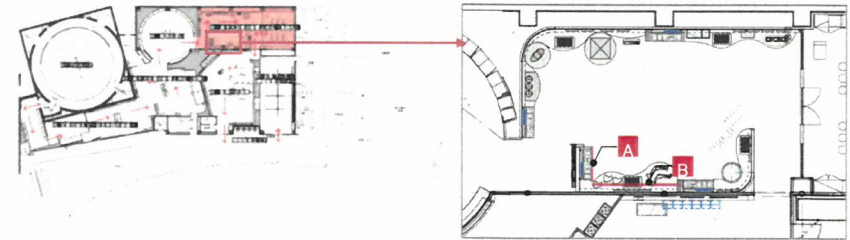
精米用検査済ラベル2種



5-3

長期避難への対応

長期避難がもたらす問題は、経済、住居、子育て、健康、地域の荒廃など複合的で、解決は容易でない。長期避難による諸問題を明らかにするとともに、その解決のため現在進められている取り組みを紹介し、これから何ができるかを考えることにつなげる。また、問題解決には物質的なケアと心身のケアとの両面を継続的に取り組む必要があることを訴える。



1. 研究者インタビュー

2. 長期避難の現在 (タッチパネルコンテンツ)

- ・避難区域等の推移、12市町村の避難者数及び居住者数の推移、行政の対応策
- ・国、県、市町村が実施した「住民意向調査」の結果
- ・全国避難者数
- ・原子力発電所事故で避難した市町村の学校の児童・生徒数

3. 避難に関する各種調査データ (グラフィック)

- ・県内人口の推移
- ・避難者数の推移
- ・避難者支援の取り組み
- ・避難住宅等への入居状況

※立体グラフィックでは概要、タッチパネルコンテンツでは詳細を取り上げる形で連動。

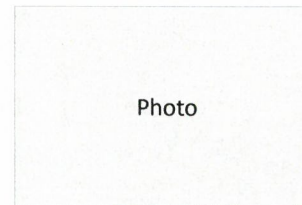
2. 長期避難の現在 (タッチパネルコンテンツ)

長期避難がもたらす問題は、経済、住居、子育て、健康、地域の荒廃など複合的で、解決は容易でない。長期避難による諸問題を明らかにするとともに、その解決のため現在進められている取組を紹介し、これから何ができるかを考えることにつなげる。国、県、市町村の最新のデータや取組を任意に調べることができる。



実物資料 (候補)

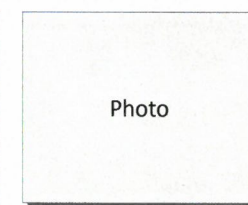
- ・長期避難の実態を表す資料



ふるさと帰還通行カード



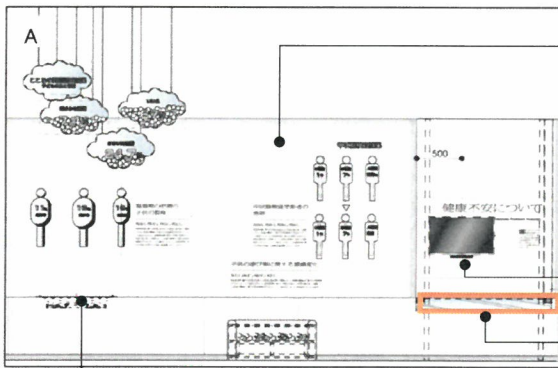
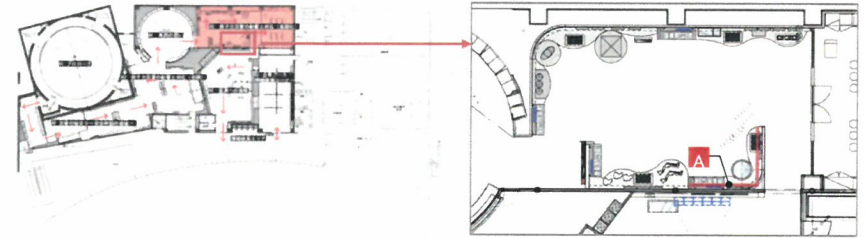
被災証明書



罹災証明書

5-4 健康不安への対応

事故由来の放射線の健康への影響は現時点で確認されていないが、前例がない状況の中で、人々の健康に対する不安を緩和するために行われている様々な取り組みについて紹介するとともに、放射線の健康への影響を正確に伝える。また、様々な取り組みの中から、事故以来実施されている県民健康調査について焦点をあて、調査内容への理解を促進する。



- 3. 立体グラフィック
 - ・コラム「県民健康調査とは」
 - ・県民の放射線健康不安調査
 - ・福島の子供たちの健康
 - ・子どもの情緒と行動についての調査結果の推移（コラム含む）
 - ・遊び場に関する保護者の意識変化

※立体グラフィックでは概要、タッチパネルコンテンツでは詳細を取り上げる形で連動。

- 2. タッチパネルコンテンツ
 - ・健康不安への取り組み
 - ・県民健康調査
 - ・甲状腺検査

1. 研究者インタビュー

実物資料

2. 健康不安の現在(タッチパネルコンテンツ)

事故由来の放射線の健康への影響は現時点で確認されていないが、前例がない状況の中で、人々の健康に対する不安を緩和するために行われている様々な取り組みについて紹介する。また、事故以来実施されている県民健康調査について解説し、内容への理解を共有していくことで、放射線の健康への影響を正確に伝える。



実物資料(候補)

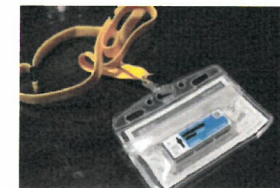
- ・各種検査に関する資料



甲状腺検査ってなに？冊子



県民健康調査問診票

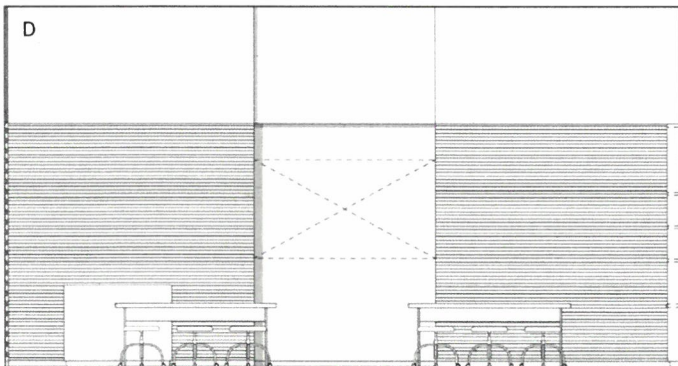
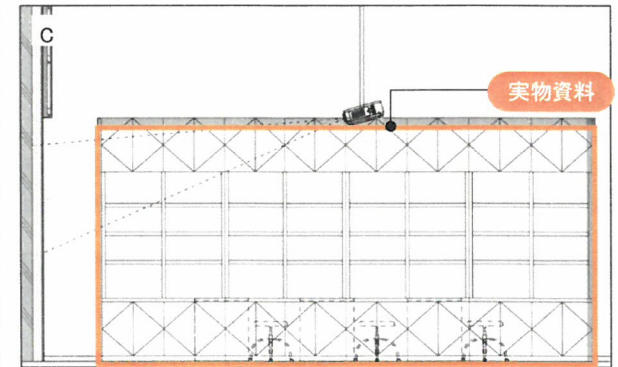
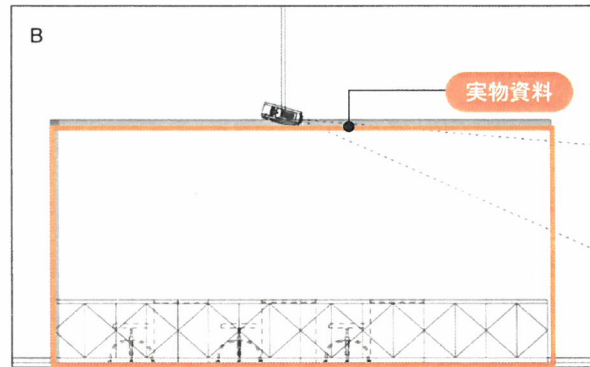
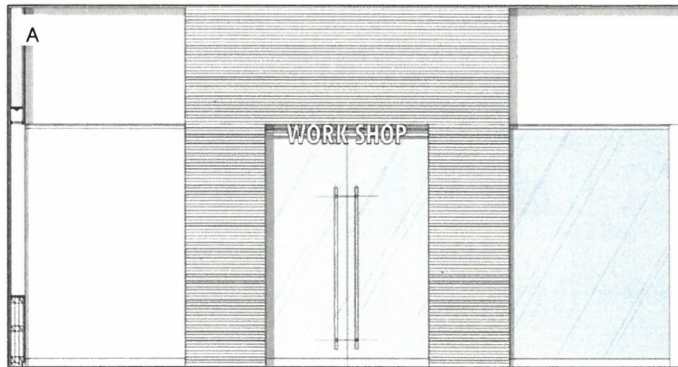
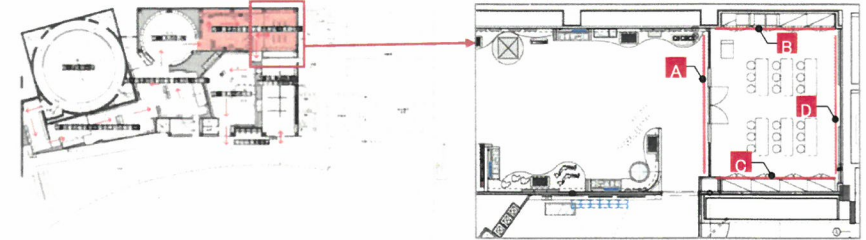


貸出ガラスバッチ

5-5

研修・ワークショップ

防災・減災に関する学習やワークショップ、研修が実施できるスペース。様々な資料、機器、装置を活用したデモや検査などの体験が可能。



実物資料 ※検討中(参考)

・研修・ワークショップで活用できる検査器など



全量全袋検査機模型



座椅子型ホールボディカウンター



食品検査機



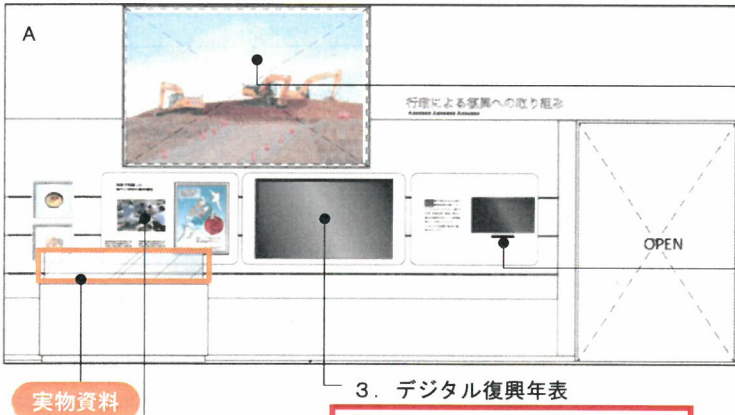
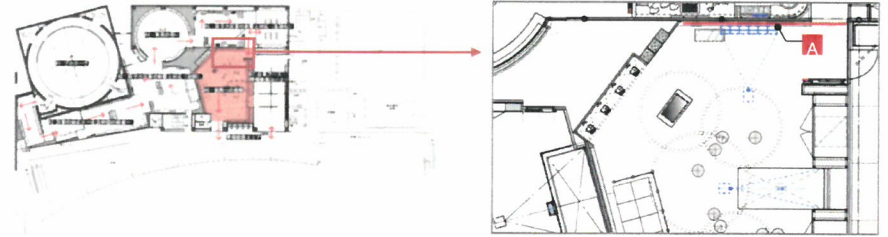
リアルタイム線量計

その他研修に使用する資料・機器・装置など

6-1

行政による復興への
取り組み

災害の発生からこれまでの復興の歩みについて紹介する。
また、復興に向けた様々な取組に関する最新情報を届ける。更新可能な展示システムを整備し、除染の進捗や産業の復興、新しいまちづくりの状況など、常に復興に関する新しい情報を得られる場所にする。



2. 復興する街
(タイムラプス映像)

1. 証言映像

3. デジタル復興年表

4. 県下、12市町村の
復興への取り組み
(タッチパネルコンテンツ)

実物資料

「12市町村の復興への取り組み」
コーナーと「行政による復興への
取り組み」コーナーを合体。

2. 復興する街 タイムラプス映像

原子力発電所事故により避難を余儀なくされた地域における復興の進捗情報をタイムラプス映像で伝える。

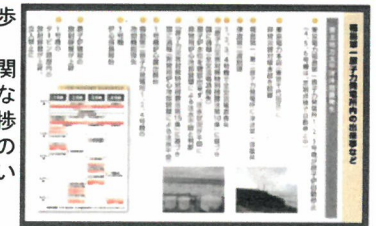
タイムラプス映像イメージ マリンハウスからの風景



3. デジタル復興年表

災害の発生からこれまでの復興の歩みについて紹介する。

また、復興に向けた様々な取組に関する最新情報を届ける。更新可能な展示システムを整備し、除染の進捗や産業の復興、新しいまちづくりの状況など、常に復興に関する新しい情報を得られる場所にする。



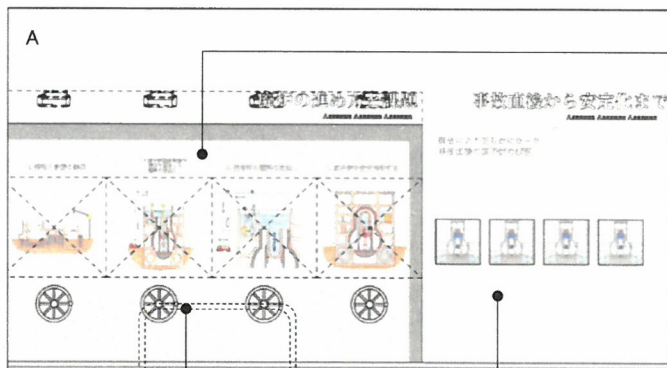
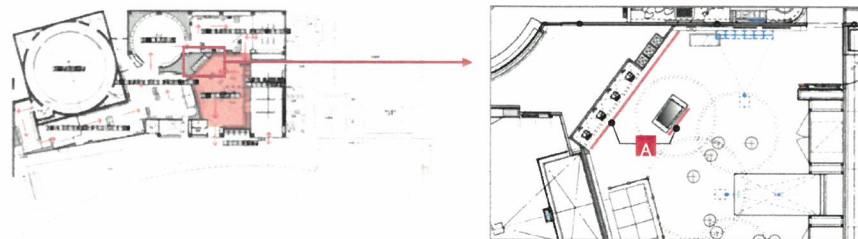
実物資料 ※検討中

・12市町村の復興イベントなどでの参加者の作品など

6-2

廃炉の今

福島第一原子力発電所における廃炉作業の内容を伝える。
また、事故発生から現在に至るまでの時系列を自由に操作できるようにし、その時の建屋の外、中など廃炉の経過を伝える。あわせて、これまでの経過や全体工程の中での進捗、廃炉に関連して開発された技術などの情報発信を行う。



4. 廃炉の進め方
タッチパネルコンテンツ+模型

3. 廃炉のあゆみ
(タッチパネルコンテンツ)
1. 事故直後から安定化まで (解説)
2. 廃炉作業進捗状況 (解説)

3. 廃炉のあゆみ (タッチパネルコンテンツ)

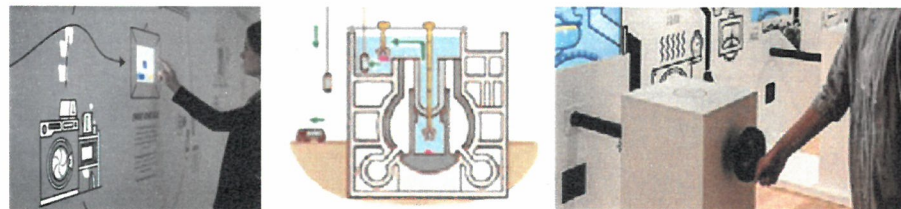
事故発生から現在に至るまでの時系列を自由に操作できるようにし、その時の建屋の外、中など廃炉の経過を伝える。あわせて、これまでの経過や全体工程の中での進捗、廃炉に関連して開発された技術などの情報発信を行う。



※展示手法変更

4. 廃炉の進め方 タッチパネルコンテンツ+模型

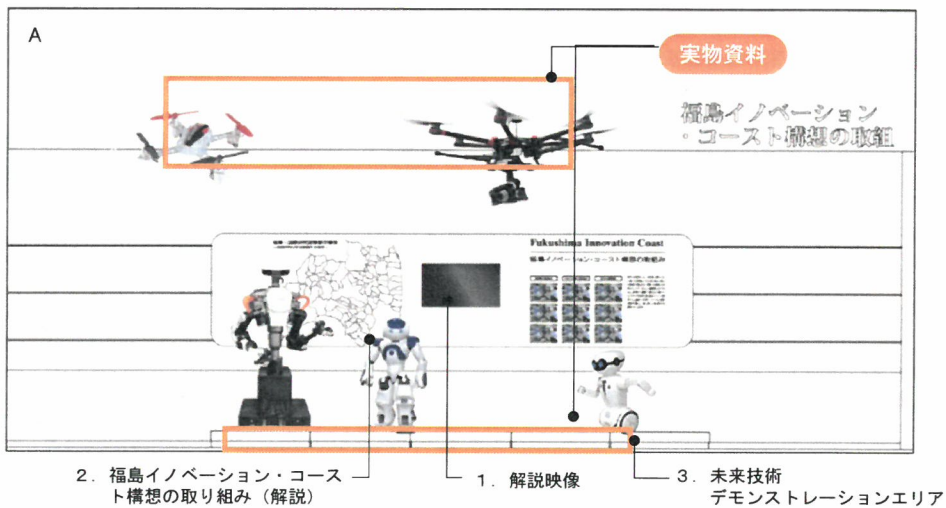
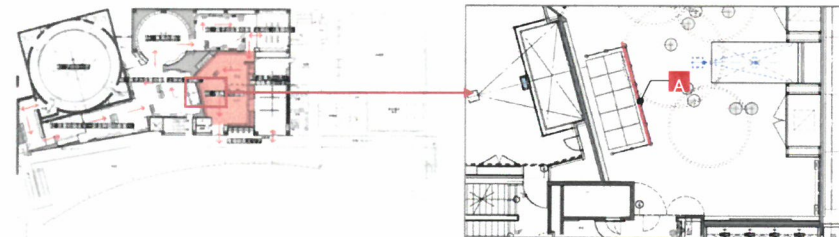
プロジェクションマッピングの手法を用い、壁面イラストに廃炉の進め方を段階的に解説するとともに、存在する課題への理解を進め、廃炉作業の難しさや重要性を伝える。



6-3

福島イノベーション・コースト
構想の取り組み

震災・原子力災害によって失われた浜通り地域の産業回復を目指す福島イノベーション・コースト構想と連携した、先端技術や最新の取組を紹介するスペースとする。新産業の現場への回遊の誘導、ツーリズムの紹介などを行うゲートウェイとして機能させる。
 福島の復興に重要な役割を果たす再生エネルギー、そのほか先端科学技術のデモンストレーションを行い、未来のビジョンを共有し、復興を推し進める契機となるような場とする。



実物資料 ※検討中(参考例)

・研究・イベントに沿った展示物を関係企業、団体などと連携する。



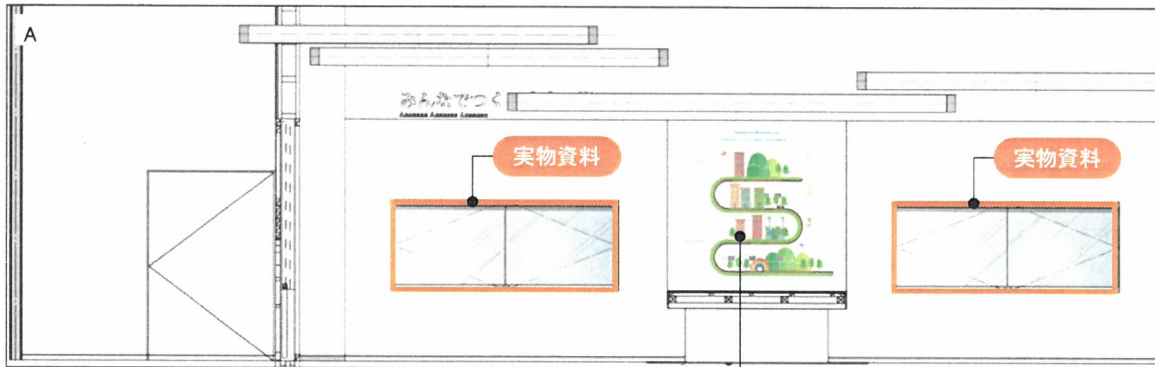
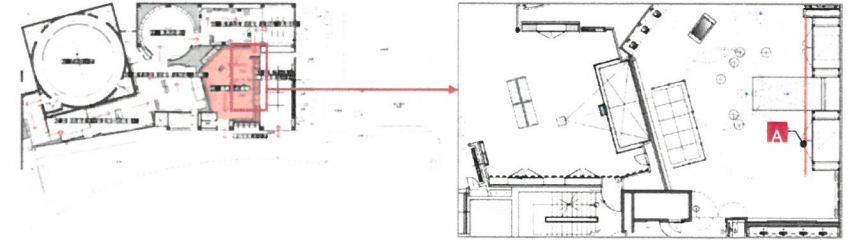
企業の産業用ロボット (参考例)



JAEAによる実験の様子

6-4
みらいの街

複合災害を乗り越えて、これまで以上に魅力ある新たな街に生まれ変わろうとする福島の未来への期待を抱かせ、展示の締めくくりとする。ここでは震災・原子力発電所事故後、様々な困難に遭い、未だ立ち直れない人、悩んでいる人、新しい一歩を踏み出した人、福島を応援する人など、様々な人々がいる中、来館者が「住んでみたい」と思い描く未来の街を一緒に想像してもらおう。



1. みんなで作る未来の街
(タッチパネルコンテンツ)

1. みんなで作る未来の街
(タッチパネルコンテンツ)

来館者が思う、「こうなったらいいな」という福島のみらいの街の姿を、デジタルメディアを使って、みんなで作り上げる。



※別紙参照

実物資料 (候補)

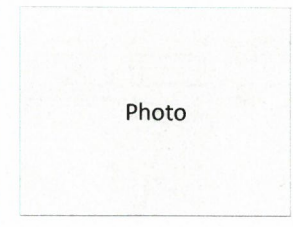
・子供達が考える
未来の街の原画・
模型。



子供達が描いた
『みらいのまち』の原画



○○○○○○○○の昔の様
子模型



○○○の子供達が作った
未来の街模型

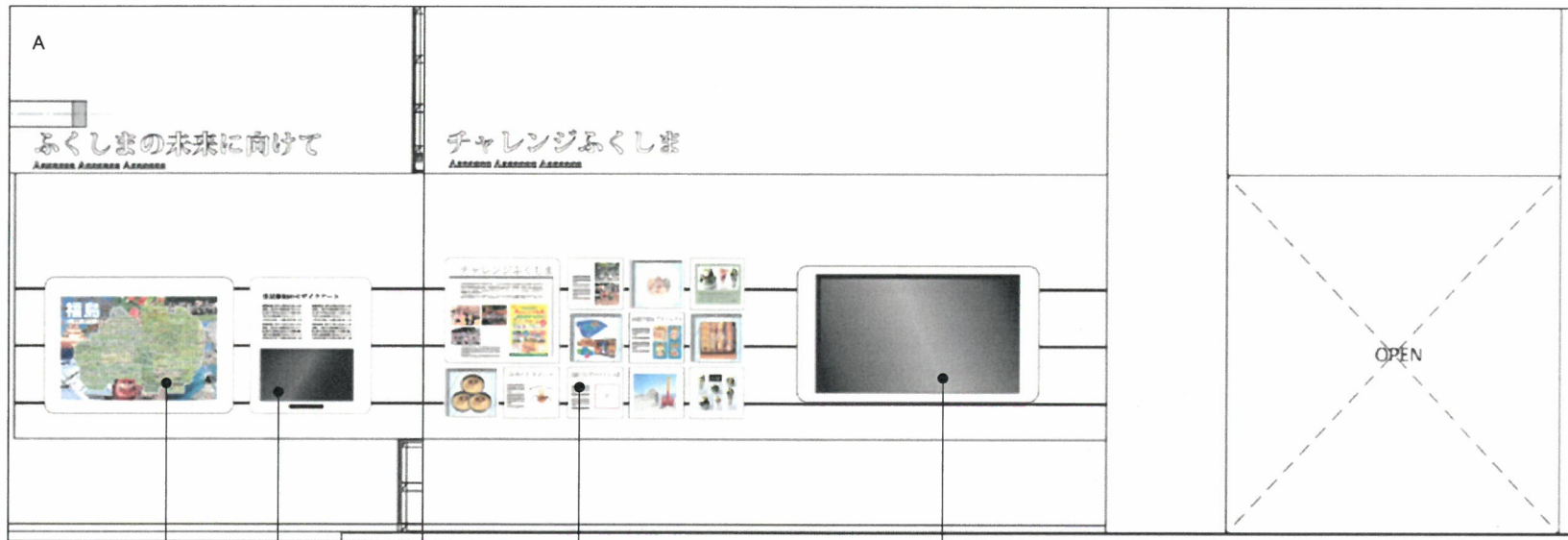
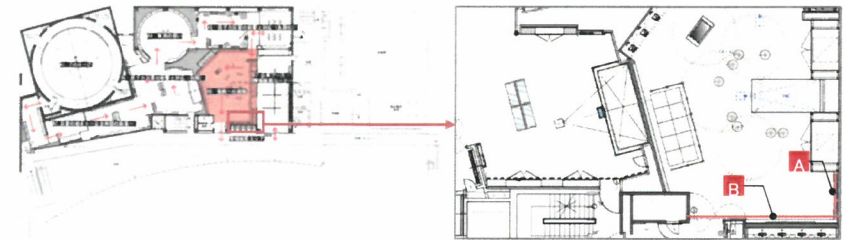
6-5

チャレンジ！ふくしま

(県民による復興への取り組み)

原子力災害によって県民が直面した様々な困難。それを乗り越えるため、地元の特産や銘品などを再生させ、ブランドとして価値向上させるなど、県民による復興への取組を紹介する。展示の内容については、随時更新可能とし、常に新しい取り組みを紹介するとともに、未来への県民の想いを伝える。

また、浜通り12市町村をはじめとする県内の「語り部」が、自らの経験、復興やふるさとへの想いを語る場として利用する。



1. モザイクアート
(H30 生涯学習課事業で製作)

3. チャレンジふくしま
(解説・実物)
※随時入れ替え

2. 県民の未来への想い (映像)